

# 150 ジョルジョーネ絵画の画面合成発見の経緯

## 遠近法の意図的破壊

2026

真鍋友範



《嵐》



通称《3人の哲学者》

### 1 《嵐》

ジョルジョーネは、優れた視覚認識力に基づいた、高度な物語描写を再現できた画家であった。

ジョルジョーネの画才とは、弟子のティツィアーノにも超えられない天才的なレベルの、しかも超近代的な発想で自由に画面を構築できる画家であった。

私は、ジョルジョーネの優れた表現力の秘密を解き明かすに至った経緯を、ここに公開する。

《嵐》を真正面から観察した切掛けは、この作品が【謎】であると解説した文章をしばしば目にしたことによる。

【謎】ならば、挑戦する価値は大いにある。

2026年現在、もう《嵐》は、謎ではなく、ジョルジョーネが描いた一追悼画作品であると整理され、何の疑問もない。最初期の風景画などではない。

《嵐》をよく見ていると、変な表現だと感じる。それは、左の男の身長サイズとヴィーナス母子の身長サイズがアンバランスであることに気付く。

【仮に、ヴィーナス母子がその場で立ち上がり、男の方に歩み寄り、隣に立つたなら、身長の高い大女となる】。

【遠近法】の最低限の美術知識があれば、誰もが気付くとは、言えないが、指摘されれば、90%の人は同意できる表現差異が存在する。

遠くのものは、近づくに連れ大きくなる。遠くのものは不鮮明でも近いものは鮮明で詳細に目に映る。いわば遠近法表現の常識だ。

これまで美術史家は、ここに注目してこなかった。だから謎が謎のままであつたのだろう。

ジョルジョーネの嵐では、まだ遠近法の破綻がある。

1) 男とヴィーナスの間の植物描写が、近景であるにも関わらず克明ではない。

2) 男とヴィーナスの間の水面が、青くなく、黒い。

通常の、一画面の風景描画ではなく、遠近法表現を逸脱している。

他にも、3) 水面の横の土手が、断層のようで不自然。

これらの多くの遠近法表現の破綻が、ジョルジョーネの遠近法を理解の欠如とは考えられないのだ。

だとすれば、これは意図された遠近法破綻であって、ジョルジョーネの表現意図が隠されている。

それは何か。

答えは一つ。つまり画面合成（コラージュ）しか考えられないのだ。

一つの画面の中に、3つの画面が存在する。男のいる空間、ヴィーナスのいる空間、そして二つの空間を結ぶ稻妻の光る第3の空間。

男とヴィーナスの空間は、遠く離れている。だから、ヴィーナスがいても、男には見えていないのだ。

男は、兵士だが、鎧はつけていない。もう亡くなつた人物であることは、折れた旗竿が敗北のシンボルとして描かれている。

男は稻妻の光を見て、不安な心情に包まれる。【故郷の母子は安泰か】と。しかし母子は天上界の住人ヴィーナスとして、地上の住人ではない。つまり亡くなっているのだ。

一方のヴィーナスには、稻妻の音が後方から聞こえている。妻であったヴィーナスの表情は、マリアのようなイエスへの慈愛の表情ではなく、暗く不安な表情だ。つまり、【出征した夫の安否を心配している】のだ。

ここには【夫と妻が相互の安否を案ずる家族愛の姿が描かれている】。

ジョルジョーネは、心象風景の描写を、巧みな画面合成と自然描写に重ねて表現するという、当時誰も真似のできない高度な描写を、画面合成技術で到達した稀有なルネサンス画家であったのだ。

## 2 《三人の哲学者》

この発見から、しばらくして、更に難度の高いジョルジョーネの表現に出会つた。

その作品とは、《三人の哲学者》だ。

この作品も、画面合成を看破できなければ、到達できない壁があった。

この作品には、やはり【遠近法の意図的破壊がある。】

それは何か。

腰掛けた若者のサンダルを履く足のサイズと、中央のターバンの男の足のサイズとの奇妙な違いだ。

明らかに、若者の足は、同列に存在する集団の一員だとすれば、大きすぎるのだ。

つまり、ここでも、《嵐》と同じように、【遠近法の意図的な破綻】を象徴している。

これは、これまでと同様に【画面合成】が内在することを暗示しているのだ。

そこで示されるのは、同一人物の異なった時代の姿が、同時に表示されていることを意味すると考えられる。

その根拠は、ルネサンス期・ヴェネチア派の画家ヴィットーレ・カルパッチャ作《聖ウルスラの殉教・アカデミア美術館》で描かれた聖ウルスラの生前、死後2段間の表現と全く同様なのだ。

つまり、ジョルジョーネは、【ターバン姿の壯年船主の青年期の姿を、同時に1枚の絵画内で表現している】のだ。

これによって、物語が成立する。【若い頃造船学（あるいは建築学）を熱心に学んだ青年は、やがて成人後、地中海貿易での船主として活躍したが、地中海での帆船の沈没あるいは、イスラム勢力との争いにより、隣の友人である黄色い衣服の天文学図とディバイダーを持った航海士、あるいは船長とともに亡くなった。】

ジョルジョーネは、画面合成によって、我々に【一人の船主の人生】を、静かに叙情詩的な物語として語りかける追悼記念画として、依頼者の為に描き完成させたのだ。

### 3 結論

このように、《嵐》と《三人の哲学者》に共通の【遠近法の意図的破綻】を用いて生み出される内面的な【故人の人生の物語】を叙情詩的に描き出していることに気付かされたのだ。

[PREV](#) ← ● → [NEXT](#)  
[眼鏡の聖マタイ](#) [トップページへ](#)